

## 会 議 議 事 録 (要旨)

会議等の名称	令和2年度第1回磐田市子ども・子育て会議
担当部課名	こども部こども未来課
開催日時	令和2年10月12日(月) 14:00~16:00
開催場所	iプラザ2階 ふれあい交流室2
出席者	出席委員(敬称略11人) 漁田 俊子、鈴木 敏弘、中村 友子、間瀬 恵梨佳、山下 健太郎、 望月 沙登美、鈴木 将弘、村松 史紀、梶山 美里、平野 恵美、小野田 樹  事務局(11人) ・こども部長 鈴木壮一郎 ・教育部 放課後児童支援室 室長 内野恭宏、主任 松島優 ・こども部 幼稚園保育園課 課長 川島光司、課長補佐 伊藤里香 総務G G長 三谷昌史 こども未来課 課長 伊藤修一、課長補佐 高杉順也 こども支援G G長 岡田佐栄子、主任 鳥居良之 主事 清水駿介
議 題	(1) 第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画の概要について (2) 子育て支援センターのあり方について (3) 第2期幼稚園・保育園再編計画について
配付資料等	資料1 第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画について 資料2 「仮称：磐田市子育て支援センターのあり方」について 資料3 仮称：東部地区新子育て支援センターについて 資料4 幼稚園・保育園再編計画(第2期 平成29年~令和3年)の進捗状況 資料5 こども・若者相談センターの概要(磐田サポートハウスほっと活用状況)

1 開会	
2 委嘱状交付	<p>新任委員に委嘱状交付 委員、事務局 自己紹介</p>
3 正副会長選任	<p>会長 漁田俊子委員、副会長 鈴木敏弘委員を選任</p>
4 議題等	
会長	<p>始めに、議題1「第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画の概要」について事務局からの説明をお願いします。</p>
事務局 (こども未来課)	<p>事務局説明 (資料1：第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画の概要について)</p>
会長	<p>事務局からの説明について、御意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>議題からは外れるかもしれませんが、2月からのコロナの影響が全国的にも大きいと感じています。民生委員という立場から各家庭を訪問していく中で、コロナ禍での子育ての形が新しい形になってきている。一人ひとりの環境に応じた子育てという形になっていると感じています。</p> <p>磐田市でも新貝に子育て支援センターを建設していますが、子育てにおける良い環境とは何かと思います。ある人にとっていい環境でも、ある人にとってはもっと違う環境が必要ということもある。</p> <p>市全体をレベルアップさせるための政策を市はとるが、それとともに、我が子にとってどういった環境がいいのかということも考えていかなければならないのかなと、そう思っております。</p> <p>もちろん密を避けるということで、保育園や幼稚園、放課後児童クラブなど40人、50人の子どもたちのなかに、指導員が1人か2人、もっと少人数に分けていくと、もう少し定員増が必要になったりすること、私たちも何かお手伝いすることはないのかなということを考えています。</p> <p>そういう中で、結局必要となるのは、人の確保と予算と場所、その3点がどんな事業をやるにも必要になるので、政策を立てる人にとっては、裏付けになるものに頭を悩ませていると思います。</p>

この i プラザにもある子育て支援センターの各地区の利用者はどのようになっているのかなということも考えました。

その他には、もう少し大きい子どもたち、少年から青年に移り変わる時期の子どものもので、この資料にもある、里親制度の普及と啓発ということがあります。

これは国策ですので、何とも言えませんが、以前、緊急避難をできないかという相談を受けたことがあり、その時、少年から青年の子どもが緊急避難のような形で、数日間避難できる場所があればいいなと思いました。

今の新しい子育ての第一線にいる保護者の皆さん、保育園や幼稚園の先生方からこれからどのように変わってくるのかということをお勉強させていただきたいと思います。

会長

ありがとうございました。今たくさんのお話をいただきましたが、里親、放課後児童クラブ、緊急避難できる場所など、大きい話では人、場所、金の三点セットのお話もいただきましたが、そうした大きなテーマでもかまいませんし、先ほどの事務局の説明を受けたなかでの御意見、ご質問でもかまいませんので、ご自由にお話していただけますでしょうか。

委員

未就園児の母親と関わる仕事をしてしていますが、小さいうちから個性を大事にしましょうというわりに、みんなと一緒にしないとダメだよねとか、発達の部分に関して「はいはい」も、離乳食は何か月までに始めなくてはとか、結局小さいうちから、みんなと一緒に当たり前だよねという教育を母親たちも刷り込まれてしまっているの、じゃあ、保育園に入った、幼稚園に入ったので個性を大事にしましょうねと言われても、個性を大事にする方法がわからない方がすごく多いと感じています。

相談にくる方々も、発達が遅いんですが大丈夫ですかねとか、1歳2か月で歩かないけど大丈夫ですかねとか、それが普通だから安心していいよと説明しても、周りの子が早いと、自分の子の発達が遅いんじゃないかと心配される。離乳食も食べさせればいいんですけど、食べない、食べた便秘をする、このままあげ続けていいんでしょうかなど、目の前のお子さんとの対話ではなく、保健師さんとの対話になってしまっているの、そうした部分も、もう少し柔軟に幼少期から個性を大事に自分のお子さんの育児書をあなたが作っていくんですよという方針になっていただけると、幼稚園、小学校と上がっていくときに、思春期だったり、ちょっとおかしいことがあったときに、あな

委員

たは昔こうだったから、こうやってみたらどうかなみたいなことが出てくると思うんですね。先ほど一人ひとりにあった子育てをというお話がありましたが、まさにそこにつながっていくのではないのかなと思います。

今は情報がたくさんあって、携帯一つで色々な情報がすぐに入ってくるので、どんな情報に頼ればいいのかというところがすごく難しいんだと思います。入園前のお子さんの保護者だったり、入園している保護者と話していても、それをここ数年感じています。

やはり、正しい子育てということ、保育もそうですが、これが一番正しいというものがないので、やはりそこが難しんだろうなと思いつつながら、周りのお子さんの話だったり、友達のお子さんの様子が気になるのはわかります。保育園もコロナの関係で自粛期間がありました。コロナ禍の中で、これまでのように家族で出かけることができなかつたり、外食にも行けなかつたりということで、色々心配をしました。保護者たちが、子どもと一緒に家にいる時間が長くなることでどのようになっていくのか少し不安を感じながら、保護者のケアをどうしていくかということも考えながら様子を見ていました。

最初はやはり保護者たちも、イライラしたり、兄弟げんかが増えたり、いつもいない夫が早く帰ってきたりして大変だなどの、色々な話を聞いたりしましたが、やはり子どもたちにとって、家族と一緒にいる時間というのは、かけがえのない時間であり、逆に夏を超えたあたりくらいから、コロナ禍の新しい生活様式に慣れてきて、今までは祖父母のところに子どもが行って、甘える姿が、許せない、自分たちがけじめやメリハリをつけているのに、祖父母が甘やかすことで親の思いを砕くという考えがあった保護者たちの声が、それぞれの役割があって、逆に祖父母に甘える子どもの姿が必要なことだったんじゃないかと思うようになったというような話や、連絡ノートを読ませてもらい、いろいろな意味で家族との時間が、子どもにとってプラスになっていて、お家の方たちも、特別なことはしていないんだけど、本当に安心・安定を感じるようになってきていると感じています。

このコロナ禍が、もう一度自分たちを見直すという意味では、プラスの面が見えてきているなど感じています。

委員

私は3人の子育てしております、上の子が小学生で、下の子が幼稚園ですけども、発達の話ですと、上の子は手がかからなかったんですが、下の子には非常に手がかかり、すごく悩んだ時期がありました。入園前も入園後も私と離れることができず、最近やっと離れられるよ

うになったぐらいで苦労しています。

おっしゃるとおり、他の方と比べたり、いつになったら親と離れてくれるなど、悩んでスマホで調べたりすることがあったんですけども、このコロナ禍で子ども3人と主人の家族5人で過ごすことが増えたことで、イライラしたこともあったんですが、その中で向き合う時間が増えたのは、コロナ禍の中でも良かったことなのかなと思っています。一人ひとりに合った子育てというお話がありましたけれども、それぞれが、ちょっと見直すいい機会だと思いますので、そうした意見をこの場ですくい上げながら、私自身も伝えたいけたらと思います。

委員

私は発達支援施設にいますが、本来なら保護者の方が子どもを連れて中まで入ってきます。

しかしコロナ禍になり、保育園などと同じように、玄関で引渡しをするという状況になり、部屋に入ってどう先生と関わっていたりとか、どう子どもたち同士で遊ぶのかということを保護者が見れない状況にありましたが、最近になって、保護者の送迎などを中でやるというところに戻しました。

私の施設はミラーガラスになっていまして、保護者がクラスの中を見ていても、子どもたちからは、自分のお父さん、お母さんが見ていることを見れないような形になっています。やはり保護者は見れるっていうことに、すごい安心して、それが表情に出て、やっと通常どおりというか、もとに戻ったなという感じがしましたが、やはり、保護者はそういった不安を常にもっています。

発達の障害をもっていなくても、やはり、それぞれの子どもたちの成長段階は違うと思うので、発達障害という視点の中で、発言させてもらっていますが、本当に磐田市の中で、障害を持っていても、自分の子どもの成長は、こういうパターンなんだと、安心できる仕組みづくりというか、そういったものは、本当に保護者の皆さんの安心感につながっていると思います。

委員

実験室とか教室では、しばしばワンウェイミラーっていうのがあって、警察の犯罪者の取調べ室にもあると思うんですけど、今は発達支援施設の話でしたが、普通であれば、保育施設って、保護者がどんどん入ってきて、子どもの中に普通に入って子どもの様子を見て、バイバイしましよねって言って帰ったりするという、普通の状況が初めて出来なくなって、今までそれで情報提供してもらってたんだと情報共有してたんだっていうことが無くなって初めて、こんなに開放されていて、勝手に見る事が出来たんだっていうことを知ることが

委員	<p>出来たというお話でした。</p> <p>それから、御意見のあった、コロナ禍でもいい点をいっぱい見つけることも出来たんじゃないかなっていう、そんなふう楽観的に考えるとネガティブなことばかりでもなく、困った、落ち込んで大変なことになった、経済的にもどうするんだろうっていうことだけではないことで、振り返ってみて、こういうことが出来て、やってたんだ、そこに戻していこうじゃないかっていう視点が割と出来てきたかなっていう、そんな感じで何か一人ひとりが向き合うみたいなこと、テーマになってしまったようなんですけども、とてもよかったかなと思います。</p>
委員	<p>この全体像について、皆さんの話を聞いていて、なるほどと思いながら、学校現場で起きていることがそのまま地域でも起きているのかなというふうに思ってます。</p> <p>児童虐待、外国につながる子どもへの支援とか、子どもの貧困対策など、そのまま学校現場で起きていることそうしたことを市の施策としてもらうのはありがたいなところと、皆さんの話を聞いて、もちろん市の政策というのは、対子どもだと思うんですが、親に寄り添う子育ては重要だと思っていて、自分が学級担任をやらせていただいているときは、いろいろな悩みや相談に対して、やっぱり悩みを受け止めて、お家の人たちに安心してもらう。</p> <p>そういう事もやっぱり必要だなと思いますので、やはり市の施策として、子どもたちの支援ということを充実させるのは当然ですけど、お家の人を支える、そうしたところも考えて、磐田市の施策を進めてほしいと思います。</p>
会長	<p>当園でも子育てに大きな不安を抱えているお母さんがいるので、保育園と家庭とお子さんを一緒に、ともに育てましょうという目標をもって、一年間取り組んでいます。そうした保護者を支える政策、手立がたくさんあるといいかなという思いはあります。</p> <p>続いて、議題2「子育て支援センターのあり方について」に移ります。事務局からの説明の後に皆さん全員の御意見を伺いたいと今回は思っていますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局 (こども未来課)	<p>事務局説明 (資料2：「仮称：磐田市子育て支援センターのあり方」について) (資料3：仮称：東部地区新子育て支援センターについて)</p>

委員

はじめに、資料の冒頭のほうに、様々な検証を行いとありますが、  
どういうことが検証されてきたのかということをお教えいただきたい  
ということ、また資料3ページの運営基準の中の蓄積されたノウハウ  
をもとに特色のある運営というのは、どんなノウハウをもとに特色あ  
る運営しているのか、お教えいただきたいと思います。それから、土  
日開館、ランチタイムの実施等について、どういうふうを考えて、実  
現できるように検討しているのか。それともやっぱり難しいよって  
いうことになるのか、それから多様化する利用者の対応について、ど  
のような点で多様化していると捉えているのかお教えいただけますで  
しょうか。

事務局

(こども未来課)

まず、検証をしてきました内容について回答させていただきます。  
去年の11月末に1回、市民の皆さんの声を受けて、支援センターの廃  
止について凍結し、ゆっくり検証して考えさせていただきたいと、市  
長も直接現場へ足を運んできました。

私ども担当課の職員も、特に声を上げていただいた保護者さんたちと  
は、毎月懇談をしまして、直接声を聞かせていただきました。また、  
様々な集計作業をもう一度やり直してきました。

そういった中から、どういった御意見が主になるのかといいますと、  
肯定的な意見としては、すごく支援センターで支えられている、助け  
られているという方がやはり沢山いらっしゃる。

それからセンターごとに特色があって使い分けられているのがうれし  
い、地域バランス等ではなくて、ちょっと距離があっても、今私の子  
が、1歳、2歳、この年だったら、あそこを使いたいと、そのような  
御意見をいただきましたアンケートの中で、すごく強く感じたのはセ  
ンターに色々な特色があり、使い分けられたというのうれしいとい  
う意見が多いことです。

臨機応変にやってくれないかとか、支援センターでのイベントももう  
少しこういったものを作ってほしいなどの、結構個別具体的な提案もあ  
りました。

一方で、単純にもっと家の近くほしいというような、地域のアンバ  
ランスを解消してほしいといった声もありました。

そのような形で、利用者の声の検証をしっかりとやり直したこと、それ  
から、利用実態についても、皆さん必ず来るときに登録して、毎日、  
名前を書いて使っていただいている利用名簿をもう一度検証し、どの  
地区からどのセンターに来ている方が多いとか、皆さんの利用者の行  
動のパターンを検証する中で、必ずしも家の近くだけじゃなくて、や

っぱりこの年齢の時の方は、この園庭付きの外遊びができるセンターにいている親子が多いなど、利用実態をもう一度見る中で、やはり選択肢を多く残して、皆さん選んで使っていただくことが今1番望まれているということで、そこで全センターを残すというようなことを結論とするような形の検証になります。

ちょっとわかりにくいかもしれませんが、以上が検証内容の説明です。

事務局  
(こども未来課)

それから、蓄積されたノウハウというところですが、まず委託しているセンターにつきましては、こども園や保育園を運営していらっしゃる社会福祉法人に委託をしていたりとか、食育、食に特化した活動をしていらっしゃるNPO法人にお願いをしたりとかということで、やはり、園を運営していらっしゃる法人の方には、それなりの育児、保育のノウハウから、その園につなげるっていうノウハウをお持ちの中で、それを存分に生かして運営をしていただきたいなと思っておりますし、得意な分野を持つNPO法人さんには、それを前面に利用者がある程度偏っても、得意なところをしっかりと出していきたいなというところを思っております。

公設のセンターは広く公共施設の中にあることが多く、もう少し間口を広く、いろいろな方に声を掛け寄り添って対応するというところをメインにやっていくというような形で運営しています。

運営形態やどの施設に入っているから、民間法人であるとか公共であるのかというところで、それぞれ得意なところを、ノウハウとして出していきたいというところを考えながら運営をしていくということが重要だと改めて思っているところです。

土日開館やランチタイムにつきましては、いろいろ御意見がある中ですが、全センターでやらなきゃいけないということよりも、やっているセンターを選んで使ってもらおうということを考えながら、どうしても職員の雇用などの内部事情とも表裏の関係になってくるところもありますので、極力、市民の要望には寄り添っていきたいんですが、今回の中で、やはり市民の要望に寄り添って、しっかり実現していくという御意見があれば、そこは実現を目指しますが、皆さんの御意見を聞きながら、やっていきたいなというふうに思っております。

事務局  
(こども未来課)

それから、多様化する利用者への対応、多様化というところをどう捉えているかという事ですが、多様化っていうことは本当に広いので、僕が今言うことが全部ではないと思いますが、当然日本人だけではなくて、外国人の親子の方々も増えている。保育園に通う、就園率が高まっている中で、それでもやはり、家庭で保育していらっしゃる方のた

めに、どこまで支援センターがやれるかっていうことであつたりとか、時代は刻々と変わって子育ての仕方や、子どもを預かる施設の環境も変わってくる中で、支援センターってどうあるべきなんだっていうことは、ずっと同じことではなくて、やはり、ある程度のスパンでやっぱり検討していかなきゃいけないかなということ考えているところ  
です。

委員

1番上の子が小さいときに支援センターをよく利用していました。最初にテレビで支援センターがなくなるっていうことを見て、すごくびっくりしたんですけど、先ほど、自然体験というなお話がありました。確かに自然と接する機会が減っているなっていうのは思いますが、私が利用していたセンターは、外遊びができたと思いますが、外遊びができる施設がどの程度あるかわかりませんが、東部の新支援センターで外遊びができるようになっているのは、すごくいいなと思いました。

自分は一番最初の子どもの、夫が土日普通にも普通に仕事だったので、夫がいないとき、土日は子どもと一対一だったので、不安やストレスがあつたと思いますが、やっぱりそういうときには、土日開館してくれているとすごくいいなと思いました。「のびのび」などやっているところもあると思いますが、やってるところは、すごく混んでいるので、それが分散されたらいいなと思いました。

委員

自分も最初の子どもの時にすごくお世話になりました。館内では自由にいろいろな遊びができましたが、外遊びができなかったのがちょっと残念でした。ただ地区の幼稚園に就園する方が多いので、その幼稚園の情報交換にすごく利用させてもらいました。

学府ごとに、1つ支援センターを設置していただけると、情報を仕入れる場所としてすごくお母さん方にはありがたいかなと思いました。外遊びは出来なかったんですけど、住んでいる地区は田舎で周りに川があつたり、田んぼが多いので、歩いて通いながら当時は遊んでいた記憶があります。

ランチタイムのことですが、お昼ご飯を支援センターにもっていくと、子どもがいつもよりたべてくれたりするんですね。それこそバナナ1本とかおにぎりを2、3個だけという感じでしたが、親の心の負担もすごく楽になりますので、お昼の開放というのは、毎日でも、実施していただけるとすごくありがたいなと思いました。

委員

私は子育て支援センターというものを使ったことがないので、話がそれるかもしれませんが、先ほどの事業計画でもありましたが、自分が考えるのは、放課後支援としての放課後児童クラブについてです。自分の子どもが小学校の低学年くらいの時もそうだったし、よく聞く話として、条件が整っていないと児童クラブに入れないということがあって、近くに祖父母がいるとだめだとか、家に親がいてもだめだとかありますが、実際問題として自営業をしていると、家にいても、子どもを見ることができない、祖父母がいても他のことで見ることができない家が結構多いと思います。多分、場所だけの問題ではないと思いますが、家に親がいても入れるようにしてもらって、みんなで宿題をやるのもいいことだと思うので、毎日でなくても、そうした使い方ができるといいと思います。外国人の子どもも、そうしたところで学べればいいと思います。

事務局  
(放課後児童支援室)

利用の条件については、申請書で判断するところが多いので、各家庭の内情までは見えないところが正直かなりあります。そうした部分についても、聞き取り等によって加味できれば入所という案内はできるかなと思っています。今は申請時に要望がある人については、配慮できるようにしていますので、以前よりは若干ですが、そういう人も利用しやすくなったかなと思っています。多様化に関して、外国人児童については、国際交流協会と連携して、児童クラブでも通訳の派遣や日本の文化や生活様式を教える取り組みをしているところです。

委員

今、ちょうど放課後児童クラブのお話がありましたが、私も小学生の子どもがいますが、働いているお母さんは放課後児童クラブを利用していますが、自分は利用できないので、子どもを1人にする時間があります。ちょっとの時間の部分について、ご近所に頼めばと言われますが、やはり児童館のような施設があると、そこで親を待ったり、友達と宿題をやるといったことができると思います。地元の交流センターは、比較的オープンで、空いている図書室などを子どもたちが利用できていますが、地区によっては、子どもたちだけでは使わせてもらえないなどのことがあると聞いているので、児童館的な役割もするのであれば、その間口を広くしてほしいなと思います。資料中にあるセンターを利用していない層への働きかけについてです

事務局  
(こども未来課)

が、センターを利用しない理由も様々あると思います。  
子どもがよく動くから、センターではなく、外遊びを多くしているとか、母親たちがグループになっていきづらいついとか、様々あると思います。そのあたりを踏まえ、そのような層についてどのような認識でいるのか、お聞きしたいと思いました。

センターに行けていない、行かない層についての想定ですが、統計をとったときに1年に1回はセンターを使っているという利用者が0、1、2歳の60%から65%ぐらいいます。

別のアンケート調査では、支援センターを常態的に利用しているという層が30%です。それらから、ヘビーユーザーが3分の1、使ったことはあるが、それほど利用していない層が3分の1、まったく利用していない層が3分の1という風に、検証の結果から認識しているところではあります。

1回は行ったが、合わないなどの判断をした方には、一度行ってみた印象が、すでにいる母親たちの輪に入っていけないなど、母親自身が合わない、または子どもが合わないなど、いろいろな理由があって、今の支援センターの運営の中に溶け込めなかった方もいるのではないかと考えています。

また、まったく来ていない方については、実は怖いなどというところがあって、やはり家にこもり、どこにも行けずに、子どもと一緒にいるという方が、ある程度の割合でいると思っています。そういう方たちについては、外へ出る手助けや必要があれば、こちらから保健師が訪問するなど、何らかの形で関わりを持つために、支援センターがもう少し役に立てればよいと思うところがあります。

先ほどの3分の1ごとの区分の中で、1度は来たけども、そりが合わない人たちはどうなんだろう、まったく来れない人はどういう人たちで、そこに支援センターは何ができるんだろうといったところを、これから考えていかなければならないと考えています。

委員

子どもが成人しており、子育てから離れてだいがたちますので、子育て支援センターのことも正直知りませんでした。

自分の会社では、以前から女性のパート従業員がほとんどで、終わる時間や休暇もほぼ自由にしています。当日になって休むお母さんは非常に多く、全員出勤できる日は1年の中でも、ほぼ無いという状況です。会社的には、先ほどの放課後児童クラブがあると、従業員が長い時間働いてくれていいなと思いました。

委員

放課後児童クラブの需要というのは非常に高いと感じています。自分の娘が、他市の児童クラブに通っていますが、昨年人数が多すぎて4年生の預かりを辞めるとなって大炎上したことがあります。結局継続になりましたが、それぐらい需要がどんどん増えているので、それは、掛川、袋井、磐田どこでも状況は一緒だと思いますので、その対策は必要だというのが一つと、先ほどの事務局の説明の中で公設は広く、委託センターについては、その得意分野を生かしながら特色を前に出していくという話でしたが、利用する市民は、そうしたセンターごとの情報をどういところで得ていくのか、母親たちのコミュニティの中での情報として伝わっていくのか、ホームページ等でそうした情報が発信されているのか、そうしたところの発信の在り方、やり方はどうなっているのかなと思いました。

委員

事務局の説明より前ですが、子育て支援センターのお便りというのがあって、ここでこうしたことをしているよというのが、かわいらしくきれいに保護者向けに作られています。  
それ以外に発信していることがあれば、事務局お願いします。

事務局

(こども未来課)

そのお便りは、市のホームページからダウンロードしていただいたと思いますが、それ以外にも子育てアプリという、市の子育て情報を集めたアプリでも情報発信していますが、センターごとの特色については、利用者の意見も聞きながら、もう少し細かく発信していくことが必要かなと思いますし、今回こうしてあり方を検討していく中で、考えていかなければならないと思っています。  
ただ、母親同士のクチコミは、ものすごくパワーがあり、SNSでの情報交換も盛んですので、市もそうしたものに乗っていくことも必要かなと思っています。

委員

いろいろな形で情報発信していて、その辺は進んでいると思います

委員

情報発信については、各センターでも独自のお便りがあつたりすると思います。ただ、今年はコロナの影響で、イベントができない状況があるので、前年に比べるとだいぶ発信が少ないのかなと思います。  
「にっこにこ」が二之宮保育園に出来た頃を知っていますが、その頃のことを思うと、賑やかで、利用者も増えているのではないかと思います。先ほど、実際に利用されている方は30%程度ではないかという話がありましたが、支援センターの利用者に実際に聞くと、1つの支

援センターにこだわっているわけではなく、イベントごとにいろいろなセンターを渡り歩いていたりして、その時のニーズに合わせ施設を選んでいくんだなということがよくわかります。

浜松の支援センターがコロナで閉館になったとき、浜松市の方の利用があつたりということを見ると、やはり子育て中の母親によっては、本当に支援センターが必要なんだろうなと思います。平日昼間に、ららぽーとに行くと、子ども連れの母親たちの数の多さに驚きますが、やはり家に子どもと二人でいるのが大変なんだろうなと感じます。

そうした中で、保健師が生後1か月のお子さんのところに訪問に行ってくださいっていると思いますが、そこで磐田市がいろいろな施設で実施しているBPプログラムに誘い出していると思います。ベビープログラムに参加するのは、2か月から5か月の初めてのお子さんをつれたお母さんたちですが、そこで知り合いになって、少しずつ気の合う仲間の輪が出来てというところで、助かっているという声がここ数年聞けるようになってきています。

もう少しお子さんが大きくなってくると、いろいろな園などで園庭開放などもやっているのですが、今はコロナ禍で難しいですが、支援センターの利用がなくても、いろいろな園の園庭開放で外遊びを体験している人はいるのではないかと思います。

また、放課後児童クラブについて、平日の長期休暇の時に困る方がたくさんいらっしゃるって、通常は下校時間が決まっているので、家庭で少し待っていれば対応できるという家庭が多いですが、夏休み、冬休みになると1日家の人がいない間、子どもが1人で家にいるので不安というところで、困ってしまうという方がたくさんいらっしゃるって、その辺の受け入れも難しいとは思いますが、もう少し形が整っていくといいと思います。

委員

今の時代のお母さん方にとって、子育て支援センターというのは心の拠り所になっていると思います。お弁当を持って、午前中から出かけて、午後少し遊んで1日過ごしたよという声も聞きますし、1日の生活の日課に支援センターに行くことが組み込まれている時代なのかなと思います。20年ほど前、自分の子どもが小さかったころに、県外に住んでいて、そのころ支援センターを利用していました。その当時の母親を思うと、支援センターは、楽しいイベントがあるから行こう、体重を図りに行こう、そうした乗りで行っていましたが、今の時代の母親は、毎日のルーティンになっている方もいて、やはり支援センターがなくなるということは母親たちにとって、すごくショックだったのはわかる気がするって、増えるのは大歓迎ですし、なるべ

く減らさないで維持できていけたらいいんじゃないかと思います。

委員

勤務先の近くに支援センターがありますので、土日の利用状況を見ているとやはり多くの方が利用しているというように思っていて、必要性を感じています。先ほどもあった、利用したことがないという保護者の方たちが、どのぐらいいるのかというところですが、その方たちこそ、本当に支援センターなどへ出ていったほうがいい世帯の方たちなのかなと思います。そういう方たちが、どのように情報をキャッチして、どう利用に結び付けていくか、保護者同士のコミュニティをどう作っていくかといったところの道筋が出来てくると、そうしたところへ出ていくことで、力をつけていくことできるような方々が、どれくらい居るかということが個人的に気になっています。

委員

皆さん方のお話を伺っていると、本当に子育て支援センターというのは必要であるということと、先ほどの委員のお話を聞いて同じように感じていて、3分の1の本当にギリギリのところでも子育てをしている母子家庭や父子家庭があるのではないかなと思っています。そこをどうやったら拾えるかというのが課題ですが、それは20年、30年前から言われていることであって、非常に難しい問題です。こうした子ども・子育て系の会議ではなく、教育委員会では、家庭教育支援員というものがあり、自治体によっては、各家庭を巡回しているというところもいくつかあります。それでもなお、拾い上げられないというところがあって、一度、他市の校長先生に何か良い仕掛けはありませんかと聞いたところ、昼間は難しいから夏休みの夜の学校訪問というのは、いくつかの困った家庭を拾い上げることができたというのがありました。夜であれば、今まで出てこなかった保護者がやってくるということを教えてもらったことがあります。

それでも、その数は少ないわけですが、その手の仕掛けを作っていくと、助けを本当に必要としている人たちに何とか手を差し伸べられないか、何かできないかなと思っています。

会長

議題2につきまして、皆様の意見をお伺いしましたので、終わらせていただきます。

議題3「第2期幼稚園・保育園再編計画」に移ります。

事務局から説明をお願いします。

事務局 (幼稚園保育園課)	事務局説明 (資料4：幼稚園・保育園再編計画(第2期 平成29年～令和3年)の進捗状況)
会長	ありがとうございました。 御意見をご質問等ありましたら、お願いします。
委員	<p>竜洋西保育園と竜洋北保育園の統合、移転について伺いたいです。園舎の建設予定地が竜洋幼稚園の園舎の隣だと思いましたが、保育園の建設の時期の具体的計画が幼稚園と、その保護者にあまり周知されていないので、情報提供してほしいと思います。</p> <p>また、駐車場について、保育園と幼稚園が共同で使うと思いますが、現在舗装されていませんが、舗装されるのか、されないのか、また利用計画についてもすぐでなくてもいいので、今年度か来年度のはじめくらいまでに情報をいただけるとありがたいと思います。</p>
事務局 (幼稚園保育園課)	<p>竜洋幼稚園への説明については、今後説明をしていく予定です。</p> <p>現在は、自治会への説明をしており、竜洋地区の全自治会にお話をしています。また、竜洋幼稚園を含めた近隣の方や企業にも説明を行い、理解を求めています。</p> <p>駐車場の関係については、竜洋幼稚園は現在3か所の駐車場を利用していますが、新しい保育園については、駐車場を園の敷地内に設ける予定ですので、幼稚園側は従来どおりで影響はない予定です。</p>
委員	<p>岩田こども園について、1点質問があります。保育園、幼稚園とわかれています。1号認定が43人、2号、3号認定の60人はどのように分かれますか。こども園にする場合、一番重要なのは3号認定をどれくらいにするかということだと思いますので、どれくらいかわかれば教えていただきたいです。</p>
事務局 (幼稚園保育園課)	<p>2号、3号について、0歳児が6人、1歳児が10人、2歳児が10人、3歳児が11人4歳児が11人、5歳児が12人の60人になります。</p>
委員	<p>1号認定、2号認定、3号認定について、認定の内容の説明してください</p>

事務局  
(幼稚園保育園課)

1号認定については、幼稚園に通うお子さんと考えていただくとわかりやすいと思います、2号認定、3号認定は長い時間、保育園に通うお子さんです。2号と3号の違いは、年齢による区分で、0、1、2歳が3号認定、3歳以上が2号認定になります。

会長

その他の議題について、「こども・若者相談センター」の状況について事務局お願いします。

事務局  
(こども・若者相談センター)

事務局説明  
(資料5：こども・若者相談センターの概要(磐田サポートハウスほっと活用状況))

会長

それでは、本日の議題は終わりましたので、事務局にお返しします。

#### 4. 事務連絡

事務局  
(こども未来課)

次回第2回会議は、12月を予定しております。会長や委員の皆様のご予定を確認しながら決めていきたいと思っております。

#### 5. 閉会